

平成 23 年度の取組について

区分	予算額 (千円)	概要
(1) あいち海上の森 センター運営費	21,178	運営事務費、施設修繕、光熱水費、 清掃・警備・施設管理点検委託費
(2) 推進事業費	20,800	
ア 保全活動・ 維持管理費	5,728	里山保全事業、森林育成事業、森林の維持 管理事業、自然環境の維持保全、境界整備、 遊歩施設整備、事業用地維持
イ 普及啓発・ 参加交流費	9,099	森の教室、里の教室、里山のものづくり、 調査学習会、海上の森ツアー、森の楽校、 展示運営、企業連携、関係施設・団体との ネットワークづくり
ウ 調査学習・ 情報発信費	5,973	自然環境調査 情報収集整理発信
(2) 里山人材育成推進費 (万博継承事業)	16,800	あいち海上の森大学 人と自然の共生国際フォーラム
合計	58,778	《平成 22 年度予算額 64,675 千円》 (90.9)%

別掲

緊急雇用創出基金事業	11,499	海上の森森林整備 (危険木伐採、草刈り)
------------	--------	----------------------

【自然環境調査】

- ・湿地の植生・環境調査 (4月～3月)
 - ・希少動物調査 (ムサビ・ホトケシヅメ) (5月～3月)
 - ・猛禽類調査 (オオカ・ハクマ) (5月～3月)
- (別紙 平成 23 年度自然環境保全調査の概要について)

【企業連携の推進】

海上の森における企業連携覚書締結企業

- ①株式会社 I N A X (H20. 4. 15)
- ②株式会社第一工房 (H20. 3. 30)
- ③株式会社ナゴヤキャスル (H20. 12. 18)
- ④KDD I 株式会社中部総支社 (H21. 9. 3)
- ⑤株式会社豊田自動織機 (H21. 11. 4)
- ⑥有限責任監査法人トーマツ (H23. 2. 24)
- ⑦小林クリエイティブ株式会社 (H23. 6. 11)
- ⑧株式会社伊藤園 (H23. 10. 22)



* H23 新たに 2 社 (森林整備 (間伐等))
今年から海上の森についての説明 (講義) を加え理解促進

【あいち海上の森大学】

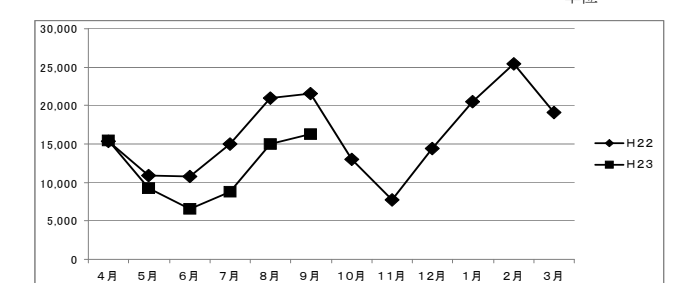
平成 23 年度 7 月 10 日開校 (定員)

森林再生コース	15 名 (15 名)
国際交流コース	5 名 (5 名)
国際協力コース	11 名 (15 名)
計	31 名 (35 名)

【緊急雇用創出事業】 歩道沿い等の危険木の伐採

ナラ枯れ被害の状況
〔 H21 470 本、H22 900 本、H23 300 本 〕
伐採(90 本) (554 本)

【節電】 上半期で 3 割以上削減 単位 KWh

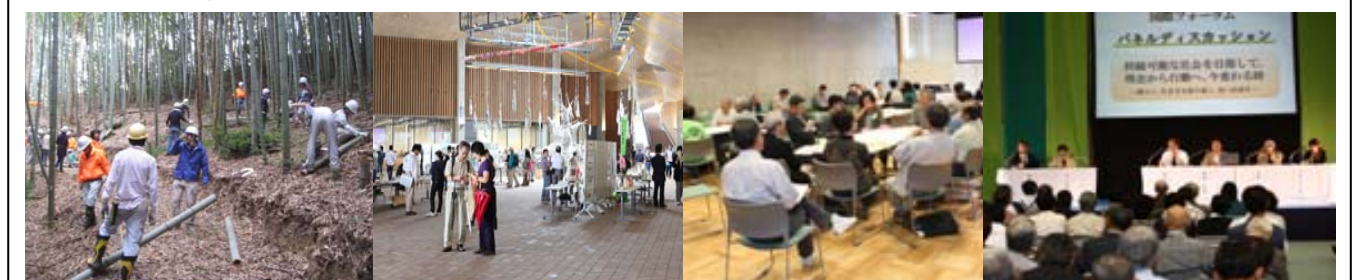


【関係施設・団体とのネットワーク】

あいち海上の森センター展示室内に情報
コーナーを設置

【人と自然の共生国際フォーラム】

日 時：平成 23 年 10 月 15 日 (土)
場 所：愛・地球博記念公園内「地球市民交流センター」
テーマ：持続可能な社会を目指して、理念から行動へ、今変わる時
～暮らし、生き方を語り直し、見つめ直す～



フィールドワーク (豊田市) ポスターセッション グループディスカッション パネルディスカッション

- ・事前の交流体験型のフィールドワークや「リニモ車内会議 (リニモの車内広告を独占して意見等の掲示等)」等の新たな取り組みも実施
- ・行事もより参加型のものとした

1 湿地の植生・環境調査

(1) 調査目的

海上の森に点在する東海地方に固有或いは希少な動植物の生息・生育環境である湿地の保全のため、湿地の植生及び環境を調査する。

(2) 調査内容

H23、24 の 2 ヶ年にわたり、H18、H19 (5 年前) に調査した湿地の植生、植物相、水質等の変化を調査する。

・調査項目：

- ①湿地の植生、②湿地の植物相、③水質調査・・・H18、H19 との比較
- ④微地形、⑤帯状区調査、⑥地下水位の監視・・・新規追加

2 希少動植物(ホトケドジョウ・ムササビ)調査

(1) ホトケドジョウ【愛知県レッドリスト：VU (絶滅危惧Ⅱ類)】

ア 調査目的

海上の森内のホトケドジョウの生息状況及びその環境をモニタリングする。

イ 調査内容

海上の森内の 1 小渓流全流域を対象に、

- ・分布及び密度を把握するための全個体の採捕調査
- ・生息場所の環境変化を把握するために水位の連続測定

ウ 確認状況

区分	H15	H16	H17	H18	H20	H21	H22	H23	
採捕数 (匹)	夏季 (7-8月)	133 (稚魚 84)	142 (稚魚 36)	234 (稚魚 187)	208 (稚魚 156)	283 (稚魚 193)	157 (稚魚69)	109 (稚魚 63)	71 (稚魚 43)
	秋季 (10-11月)	41 (稚魚 31)	102 (稚魚 27)	96 (稚魚 70)	143 (稚魚 109)	86 (稚魚 62)	-	-	-
	計	174	244	330	351	369	157	109	71
生息密度 (匹/100 m)	上流部	43	72	62	108	182	80	66	38
	中流部	37	64	122	86	168	78	49	43
	下流部	5	1	4	5	12	0	19	0
	分流部	39	7	10	6	1	19	0	0
	第一支沢	0	0	0	0	0	0	0	0
第二支沢	0	0	0	0	5	20	2	2	
夏季の稚魚率 (%)	63.2	25.4	79.9	75.0	68.2	43.9	57.8	60.6	
秋季の稚魚率 (%)	75.6	26.5	72.9	76.2	72.1	-	-	-	
稚魚の推定生存率 (%) *	36.9	75.0	37.4	69.9	32.1	-	-	-	
一日当たりの推定成長量 (mm)	0.138	0.156	0.155	0.124	0.107	-	-	-	

*稚魚の推定生存率：夏季の稚魚数に対する秋季の稚魚数の割合

(2) ムササビ【愛知県レッドリスト：NT (準絶滅危惧種)】

ア 調査内容

- ・目視による巣箱利用状況調査 (追い出し調査及び生活痕跡の確認)
- ・温度センサー及び赤外線センサー付き自動撮影カメラを用いた巣箱利用状況 (目視による確認に代わる調査手法としての温度センサー調査(H22)の検証)

調査対象巣箱位置



(◆：あいち海上の森センター、●：巣箱)

*温度センサー設置時 (7月) に、1 カ所で 2 個体のムササビを確認

3 猛禽類 (オオタカ・ハチクマ) 調査

(1) 調査目的

海上の森に生息するオオタカ・ハチクマの繁殖状況を把握する。

【愛知県レッドリスト：オオタカ NT (準絶滅危惧種)、ハチクマ VU (絶滅危惧Ⅱ類)】

(2) 調査内容

海上の森全域の見通しの利く場所に観察地点を配置しての定点調査及び、繁殖状況を把握するための踏査を行う。

(3) 確認状況 (中間報告)

オオタカ：飛翔は確認されたが、海上の森内で繁殖にかかわる行動は確認できなかった。

ハチクマ：毎月、飛翔が確認され、1 箇所で見つけられた。